人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

１．基本情報

〇都道府県名及び市町村名

青森県鶴田町

〇学校名

鶴田町立水元中央小学校

〇学校のＵＲＬ

なし

２．学校紹介

〇学級数

【通常の学級】３・４学年複式学級、他全学年１学級　【特別支援学級】２学級
【合計】７学級

〇児童生徒数

【全児童数】６１人（平成２５年１１月１５日）
（内訳：１年生９人、２年生 11 人、３年生 10 人、４年生８人、５年生 13 人、
６年生 10 人）

〇学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】
「心ひびく子」　なかよく　かしこく　たくましく
【努力目標】
「素直で明るく、思いやりのある子」
【人権教育の目標】
児童一人一人が、その発達段階に応じ、人権についての知的理解を深化させるとともに、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面で具体的な態度や行動に表れるようにする。

〇人権教育にかかる取組の全体概要

①人権意識を高める豊かな体験活動
〇体験活動の中で、お互いを認め励まし合い、自分らしさを表現する。
・縦割り班活動　・学級園での栽培活動　・りんご生産体験活動
・巣箱づくり、巣箱がけ　・ボランティア、福祉体験活動
②人権尊重の視点に立った授業づくり
生徒指導の三機能を取り入れた授業づくり
・自己決定　・自己存在感　・共感的人間関係
③人権が尊重される環境づくり
・人権を高める掲示物　・児童の成長を確かめる展示物、写真、作品
・人権意識を高める読書活動　・潤いのある環境

３．特色ある実践事例の内容

◆授業を中心とした活動や、各学級における人間関係作りのための取り組みを通じて、相手を思いやる心を育てるための実践を展開。また、その足跡が見える教育環境の整備。

１　はじめに

本校の児童は、明るく素直で落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし、いろいろなことに挑戦したり、自分の言葉でしっかり表現したりするという積極性にやや欠けている。また、情緒が不安定で学習に集中できない児童や、特別な教育的配慮が必要な児童もいる。そこで、何事にも自信を持って取り組むこと、困難なことにも粘り強く最後まで取り組むことができるよう、自己肯定感を高めるとともに、自分だけでなく周りの人も大切にするという心情を育てる人権教育が重要だと考えた。

２　取り組む内容とその理由

生徒指導の三機能を生かすことを念頭に置き、低・中・高学年ブロックに分けて、目指す子供像の検討と、具体的な取り組みについての計画を立てた。その上で、日々の授業実践に当たることとした。

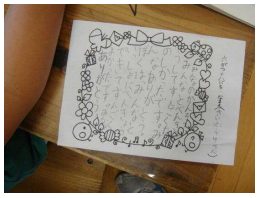
３　実際の取り組みについて

（１）授業実践

人権尊重の視点に立った授業づくりについて、低・中・高の３つのブロックに分かれてブロック研をもち、研究授業を行った。研究協議では、提案事項について分析・検証し、成果と課題を明らかにした。

①授業研究　２年生　「スイミー」（国語）

＜提案事項＞



（１）人権尊重の視点に立った授業づくり

●「自己決定」の場を与える

・スイミーが変わっていく過程と、その理由を考えさせる。

・比較させる。

●「自己存在感」を与える

・発表の目の付け所で参考になるものを板書しておく。

●「共感的人間関係」を育てる

・話し合いにより、学習が豊かになることに気づかせる。

（２）人権意識を育てるために

・スイミーと自分を関わらせて考えさせる。

【成果】

・「理由を考えさせる」「比較させる」という方法を示したことは、しっかり考えることにつながったので、有効だった。

・子供たちが迷ったところで、本文に立ち返って確認していた。国語の場合は、常に必要なことである。

・初めは恐ろしい魚を怖がって逃げてばかりだったのに、最後にはみんなの力で、平和をつくるというこの教材が人権教育にぴったりだった。

②授業研究　３・４年生　「手をきれいに洗おう」（学級活動）

＜提案事項＞

（１）人権尊重の視点に立った授業づくり

●「自己決定」の場を与える

・ブラックボックスで手を見て、考えを持たせる。

●「自己存在感」を与える
・ワークシートを活用する。
●「共感的人間関係」を育てる
・話し合いのルールを確認する。

（2）人権意識を育てるために
・手洗いは、自分だけでなく友だちも大事にすることだと気づかせる。

【成果】
・ブラックボックスを使うことで、口々に感想を言い合えていた。自己決定の手立てだけでなく、支援にもなっていた。
・ワークシートに書くことで、安心して自分の考えを言えた。すぐ感想を書きたそうな子もいたので、メモさせるスペースがあればなお良い。
・人権意識を育てるために、「手は自分だけでなく、友達も守る」という考えがとても良かった。

③授業研究　６年生　「長く続いた戦争と人々のくらし」（社会）

＜提案事項＞
（1）人権尊重の視点に立った授業づくり
●「自己決定」の場を与える
・写真、資料を提供する。
●「自己存在感」を与える
・ペア学習（少人数学習）を行う。
●「共感的人間関係」を育てる
・共感的な話形を使った意見交流

（2）人権意識を育てるために
・自分たちも日本国民の一人として、一人一人の人権を尊重し、平和な国を守ろうという気持ちを育てる。
・学校生活においても、一人一人が思いやりを持って接すること、共感的に話を聞いてあげることが自他を大切にすることだと気づかせる。

【成果】
・富士山、白神山地、原爆ドームの写真から、きれいなものと壊れた物を比較しながらなぜ原爆ドームが世界文化遺産になったのか、疑問を持つことができた。
・ペアの話合いでは、司会者、発表者を決めて話合いを進めていた。また、話合いの中で「いいね」と声をかける場面も見られた。
・意見交流では、話形にこだわり過ぎず、子供の発言を教師が支援する形で進められていたのがよかった。

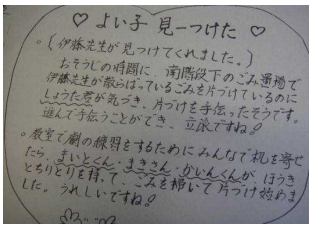
（2）各学級における人間関係づくりの取り組み

本校児童の課題として、何事にも自分らしく自信を持って取り組んだり、困難なことにも粘り強く最後まで取り組んだりすることができるよう、一人一人の自己肯定感を高めるとともに、自分だけでなく、自分のまわりの人も大切にする心情を育てることが重要であると考えている。

そのために、学校・学級だよりを通して、子供たちの善い行いや活動の様子などを掲載している。あるいは、学級で振り返りを行い善い行いや親切にされたことなどを掲示している。

また、生活満足度調査「ASSESS」による児童の実態調査を全校で実施し、実態を把握している。

□１年　♡よい子　見ーつけた♡



　学級便り「ぴっかぴか」の中で、子供の良いところを見つけて褒めてあげる。みんなの前で認めてあげる。たとえ、みんなの前では見えない行いであっても、それを取り上げて見えるようにして褒めてあげる場にしたい。そのためにこのような場を設定した。

□３・４年　スマイルいっぱい見つけたよ

　スマイルカードの実施。帰りの会等でスマイルになった場面をみんなの前で紹介する。そして、友達の良いところを子供同士が互いに認め合う。子供一人一人が互いに認め合うことで、自己肯定感を高め合えるような集団づくりをしたい。そのような願いを持って取り組んでいる。

□６年　見つめよう　自分の可能性　みんなの可能性

　自分の良いところが見つけられず、自分に対し否定的だという子供の実態がある。そうではなく自分を肯定し、もっと自分を好きになってほしい。そのために自分や友達の良いところを見つけ、それを自分に取り入れ生かしてほしい。自己肯定感の高い自分になってほしい。そういう思いで取り組んでいる。

４．実践事例の実績、実施による効果

　子供たちに自分も友達も大切にし、考えを自分らしく表現できるようになってほしいという願いで、授業実践を中心に人権教育に取り組んできた。

　まず低・中・高ブロック、それぞれの児童の実態に合わせた『目指す子供像』をはっきりさせ、具体的な取り組みの計画を立てた。日常の授業の中では『生徒指導の三機能』を取り入れた授業づくりに取り組んだ。まずは教師自身が一人一人の子どもたちに課題をどうやってつかませるか、一人一人の考えをどのように関わらせていくかを、幾つもの方法で実践してみた。また、子供のつぶやきや良さを積極的に認め、共感しながら聞くことにした。そうした教師の姿勢を見せた上で、ペア学習やグループ学習という少人数の学習形態を工夫して取り入れた。その結果、少しずつ自分の考えに自信を持ち、互いに相手の考えを温かく受け止められるようになってきた。

　また、教師の側から自他を認める場を設定するだけでなく、人権とはどんなものであるかという知的理解の深化に努めた。加えて学級でも学校全体でも、人権を意識した環境作りをしてきたことで、子供たちの意識が変わってきているように感じる。

５．実践事例についての評価

　今年度を振り返ると、初めは難しいのではと考えていた人権教育であったが、子供たちがいつのまにか生活の中で、「人権」という言葉を自然に使って
れは、様々な体験活動を通して互いの存在を認め合えたことや、学校全体の人権を意識した環境作りによるものであると考えられる。特に縦割り班による活動は高学年の児童の活躍の場となり、互いを思いやる姿が見られた。それらの土台となったのが、各学級で取り組んだ授業実践である。

　児童の中には自尊感情が低い子、自信を持てずにのびのびと表現できない子などがいる。今後は、更に人権についての知的理解を深めるために、いろいろな活動を自分たちの生活と関連させ、意味づけていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

青森県・鶴田町立水元中央小学校
児童数61名、３・４学年が複式学級の小規模校で、学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりを組織的・効果的に進めている実践事例である。 　本校では、低・中・高学年ブロックをもとに授業研究を行う、ペア学習やグループ学習等の学習形態を工夫する、学校・学級だよりを通して一人一人のよさや可能性を発見・交流する等、意図的・継続的な取組を行っている。特に、「自己決定、自己存在感、共感的人間関係」を視点にした積極的生徒指導の機能をもった授業づくりを進めている点や、言語環境や教室環境が自己・他者肯定感を高めるものとなるよう工夫している点は効果的である。また、体験活動や学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりによって、児童が「人権」という言葉を自分のものとして使うようになっている例は、人権尊重の実践行動力形成の成果として参考になる。